

感謝と共に贈られたピンクのユニホームを着るミッキー。職員と同じ服に大喜びして、これを見せてもらうと「仕事」の顔になった。＝飼い主の岩本美恵子さんと＝

動物療法

頃、リンパ本さん夫婦年退職を機に、施設を始めた。数カ月で、おちたいと思

全国友の会創立80年 友の家まつりに130人 徳山友の会が記念イベント

全国友の会（創立者・羽仁もと子）創立80周年を記念し、徳山友の会は6月、周南市の徳山友の家で「友の家まつり」を開き、市民などに学んだ知恵を紹介した。

家庭は簡素に 社会は豊かに

「鍋帽子®」の活用法など実演。子ども連れの若い主婦は「先輩の知恵を少しでも身につけたい」と耳を傾けていた。徳山友の会は毎月1回、家計簿などの勉強会をしている。誰でも入会できる。連絡先は ☎0834・31・4729 徳山友の家（火・木曜のみ）。



「もう一つの火口」の鍋帽子を紹介する会員

ナニコレ珍キノコ サマツ？

クロマツ倒木から
巨大キノコ6本
周東町 荒川敬保さん宅

キノコを見せる荒川さん夫妻。6本とも荒川さんの顔より大きく、最大の物は直径35cmあった。



周東町毛明の荒川敬保さん(72)が経営する「けあけ釣り堀」で巨大なキノコが採れた。樹齢百年以上のクロマツの倒木から今年初めて発見。梅雨頃に育つ「サマツ(サツキマツタケ)かも」と話が盛り上がった。マツタケ栽培が出来る」と笑う荒川さんはキノコ狩り名人。幼少から採っている山に毎年春と秋、マツタケ狩りに行き、「サマツ」探しもお手

DGAスクール教室生募集!

21:30 (5週目は休み)
(駐車場あり)
繰り5000円/有効期限3カ月)
タオルを持参。服装は動きやすいもの。
したハタヨガ中心。季節に応じてパワーヨガ。
31-9518 入山
心と身体のバランスがとれる状態を保つことが
心は静かだけれど覇気がなかったり、元気はあ
と、このバランスがどちらか一方が崩れている
ストレスから身体を開放してあげましょう。

がらの職人の味復活!

料理職人の目下康三さん(63)が腕ふるう「味よし」が再開して、なじみ客から喜ばれている。
「味よし」は40年前、繊維業大手の「帝人」のある元町商店街に開店。当時は糸の町として栄え、景気もよく休み返上で働いた。還暦を迎えた3年前に店を閉店。しかし、大勢のなじみ客から店がなくては困ると言われ、「ぼちぼちやる」と再び店を開け、慶弔料理や弁当を中心に注文を受けている。
料理は魚中心の昔ながらの味。朝市場に行き、活きの良い魚を仕入れる。冷凍は一切使わず、手を抜かない職人の味は今も健在。弁当1個から注文に応じている。

理・仕出し 味よし

市元町3丁目6-10
文は ☎0827-21-2312
無休

柳井市の「木阪賞文堂」主催
消しゴムはんこ作家のさくらんぼさんがやって来る!
消しゴムはんこスペシャルセミナー開催
7/31(土)、8/1(日) ①10~12時 ②14~16時
※7/31の①は満員になりました
会場 柳井商工会館 (柳井市中央2-15-1)
受講料 2600円 (教材・お茶菓子込み)
参加対象 小学4年生以上 (小学生は親同伴)
定員 各回10人程度 (要予約)
【申込み】 ☎0820-22-0150 FAX0820-22-9506

木阪賞文堂(木阪泰之社長は7月、「第1回 けしごむスタンブコンテスト」を開催。8月31日まで。
同店で販売しているSEED製のスタンブ専用けしごむ「ほるナビ」や「ラクほり」などを1点買うごとにエントリーシートが渡され、応募できる。テーマは柳井の物、夏の風物詩、文具。最優秀賞は1万円の文具券ほか各賞にプレゼント。審査員は消しゴムはんこ作家のさくらんぼさんが務める。
木阪賞文堂は1894年、白壁の町並みに創業。11年前に中央店をオープン。販売だけでなく「つくれる文具屋さん」を目指し、お客さんの多種多様なニーズに答えている。例えば印鑑の彫刻やリフォームは即日対応。賞状やラベルの作成、急ぎの注文でもスタッフが一丸となって対応する。
また、消しゴムスタンブ教室も毎月25日開催。午後1時30分~3時まで。参加費1500円。申込みは前日まで。



文具店 **木阪賞文堂**
柳井市中央3丁目278-2
☎0820-22-0150
営) 8:30~18:30 (休) 日曜・祝祭日
↑ 玖珂
柳井学園 柳井グリーンマンション 山銀 柳井園芸 柳井駅

ふれあい毎日は毎月第一日曜、県東部の毎日新聞読者にお届けするふれあい新聞です。

情報まとめてみなさんのもとへ

ふれあい毎日

招待

展

(日)

11)

円)、

500円

20人

7/20

カンボジアにある世界文

化遺産アンコール遺跡群の

開

に加え、上智

発見され日本



随筆集や自分史など自費出版をサポートしている清木さんと妻の恵子さん＝自宅の編集室で＝

「読んで癒される気持ちのこもった文字を残したい」。編集室「スモール・ヴィレッジ」代表の清木剛さん(48)は、自分史や随筆集などさまざまな自費出版をサポートしている。毎日新聞に投稿する「はがき随筆」の光同好会に所属。サンタクロースの国にあこがれ、大学でフィンランド語を専攻した異色の経歴の持ち主だ。

自費出版 お手伝いします 「スモール・ヴィレッジ」代表 清木剛さん(光市)

編集室は光市和田町にある自宅の一室。入ると北欧フィンランドの大きな風景写真が目に飛び込んできた。「森と湖が好きなので」。静かな口調の清木さんと森と湖の静寂が重なって妙に納得した。

清木さんが編集室「スモール・ヴィレッジ」を立ち上げたのは平成16年1月。それまでは印刷会社に勤務し製版業務を担当。チラシなどの活字と向かい合うなか、「捨てられないものより、残るものを作りたい」と退職。かねて自身の随筆集や旅行記を出版したいと思っていたので、同じ志を

著者の気持ちに添った編集

持つ人を応援しようとする自費出版業を始めた。少部数でもOK。自費出版は高額とされ、また注文や編集方法が分からずにあきらめる人が多い。そこで清木さんは誠実な料金設定を公開し、少部数でも、原稿が整理されていない段階からでも相談に応じている。著者の希望を聞きパソコンで編集した後、印刷会社に印刷と製本を発注。仕上がるまで清木さんが著者のもとへ届ける。その間、約3カ月ほど。料金は文字数や部数などで変わるが、これまでの例ではA5判・1色・84頁・100部印刷の文集が約25万円。文字数の多い随筆集は320ページ300部印刷して約70万円。料金は印刷代込み。

手がけた本は個人やグループの随筆集、文集、詩集、合同句集のほか、はがき随筆光同好会が年1回発行する「光炎」も毎年編集。最近では室積中学時代の恩師、山本道子さんの2冊目の童謡詩集「チユリップのつぼみに」も製作。ただ、自身の本は出版には至っていない。しかし目標はある。趣味で投稿しているはがき随筆が新聞紙面に50編掲載されたら、記念に自分史

を出版するとい。妻の恵子さん。明るい性格から「と夫を夫婦は新婚旅北欧4カ国をまために夫の剛さした。スカンジ車で一泊した後かしてフィンラ滞。あこがれ夜と冬の寒さを然を満喫した。再び北欧の地をが夢。

「旅も仕事もことをするのがさん。編集業のが、「手がけた本末に著者や編集た部分」を名刺しても存在を知らば」と控え目に編集室の名前「ヴィレッジ」はう意味。過去にて、中村印刷から「大村、中後は小村しかなられつたつぷりど心は豊か。そぎの編集室がある自費出版の問合せ72・191